

農大

農大サイエンスポート 開館

『人物を畑に還す』から『人物を世界へ還す』へ——。東京農業大学が創立130周年に向けた世田谷キャンパス再整備事業の一環として計画を進めてきた「農大サイエンスポート」が完成した。同大の新たな研究拠点として4学部15学科の研究室、実験施設および学部事務室等の機能が入り、大学の教育研究理念である「実学主義」

を体現する都内最大級の施設となっている。建物は「地層(知層)」をコンセプトに、外装から内装まで施設全体のデザインの統一感を図った。また、異分野の学生をつなぐ交流スペースを設けるなど、学部間の一体感を表現している。設計・施工は大林組が担当し、関係者が一丸となって無事故・無災害で建物を造り込んだ。

東日本大震災をうけ世田谷キャンパスの再整備計画に基づく研究教育の中核となる建物、農大サイエンスポートが2019年11月に竣工しました。本建物が関係各位のご尽力のもと計画どおりに実現できましたこと深く感謝申し上げます。

本学が戦後青山常盤松から世田谷の木造校舎に移り、その後1950年代から60年代に講義棟や研究棟が建てられました。それら建物が老朽化してきたこ



学校法人東京農業大学理事長 大澤 貫寿

と、さらに東日本大震災の影響で耐震構造の問題が表面化した中で、創立130周年に向け、世田谷キャンパスの再整備を進めてきました。講義棟(1号館)と大学本部・図書館管理棟(農大アカデミアセンター)の整備が随時終了、このたび竣工した農大サイエンスポートは、この計画の中核をなす大きな施設整備事業でありました。

知が積層、学生育成の坩堝に

ある研究室が1階から7階まで積み上がった様子。建物の各階をつなぐ場、交流スペースを設け異分野の学生の交流スペースとして活用できる場としました。

さらに交流スペースの中には大規模なプレゼンテーションができる場として、本学奥多摩演習林の杉材で作成した大階段を設けました。また、8階には約150人を収容できるラウンジを設け、教職員の交流の場や学術集会に利用していただける場として配置しました。

農大サイエンスポートが学生育成の坩堝(うつぼ)としてさらに本学の研究成果を世界に発信する拠点として永く愛されることを希望します。

世界とつなぐ実学知の発信拠点

設計・監理 大林組 一級建築士事務所 施工 大林組



一体で127坪の底の通り精度を確保

「成りたい自分に成れる場所」をテーマに、学生さんが生きいきとした学生生活を送れる建物を作ろうと設計・施工・常設部門がワンチームになり、大林組の総力を挙げて取り組みました。周囲で勉強している学生さんがわれわれのお客さんであることに常に意識して、気遣いを忘れずに、また、大学関係者の皆さまとのコミュニケーションを綿密に取り、工事にによる学業への影響を最低限にすることを心がけました。

現場周辺は、北側に13号館が近接し、南、西、東側は構内道路が接近しています。多くの大型工事車両が通行することを踏まえ、歩行者の安全確保を第一

に、工事による飛来落下災害の防止、交通災害の防止に配慮しました。工事はまず、高さ33坪、幹の直径が約1坪あるヒマラヤ杉の移植から始まりました。大学側から「針葉樹は寝かせて運搬してはいけません」と指導があり、立てたまま運搬をしました。400トンクレーンを用いた、誰も経験したことがない難作業でしたが、関係者全員の協力により見事に成功しました。現在、この樹木は、アカデミアセンターの正面の場所ので、立派にたっています。

外装は、出幅3坪、全長127坪ある南北7層の底の通り精度が、この建屋の要と考え、工事事務所全員で知恵をしぼりながら、何度も確認し施工に臨



都心への見晴らしの良い「Air Bridge」

アルミルーバーと光を表現した金属壁による東側「光の吹抜け」



ホルバーと土壁で構成された西側大地の吹抜け

農大の森に面するエントランスホール



大林組 一級建築士事務所 北村俊之

運搬し、乾燥から加工まで行った後、集中ブリスや大階段に使用しています。昨今の作業員不足やボルト・耐火被覆材・仮設材の不足など、厳しい状況でした。それでも協力会社の皆さまと協力し、先行手配を徹底することで、工事が遅延せず順調に進めることができました。さらに、活発な職長会の活動が現場での最高のチームワークを作り上げました。大学さまのご理解もあり、構内で数回バーベキューパーティも開催し、親親を深めました。最後に、大学関係者の皆さま、そして大林組の関係者、数え上げれば限(きり)がないほど多くの皆さまのご協力のおかげで、無事故・無災害で竣工することができました。あらためて感謝申し上げます。

所長 高橋 良則

設計のポイント

新研究棟「農大サイエンスポート」は世田谷キャンパス再整備の第3弾プロジェクトです。敷地内に分散配置されていた既存研究棟が老朽化したことに伴い、4学部15学科87研究室を1つの建物に集約することになりました。多様な個性的な研究室が一堂に会することを生かし、他研究室の活動の様子が見たり感じたりすることができ、人や研究室空間の交流を生まれます。分野の垣根を越えたイノベーションが起こるのではないかと考えました。

『良く耕された大地から多くの実りが』

上記のような異分野交流を促す仕掛けの他、外観から内装・サインに至るまで、「地層(知層)」をコンセプトに、モノが積層しているようなデザインで施設全体の統一感を図っています。バラエティ豊かな研究室が1階から7階まで積み重なっている様子はまさに、地層のようであり、建物中央の吹抜け空間(交流スペース)で異なる分野の知(人)が交じり合う様子は大地(地層)が耕されていくようにも見えます。良く耕された大地からは多くの実りが得られるように「農大サイエンスポート」が多くの人にとって大切な出会いを生み、世界に通用するような研究や人材が巣立つ場所になればと願いを込めました。

工事概要

▷建物名称＝農大サイエンスポート
▷建築主＝学校法人東京農業大学
▷建設地＝東京都世田谷区桜丘1-1-1
▷設計・監理＝株式会社大林組一級建築士事務所

▷施工＝株式会社大林組
▷工期＝2018年3月～19年11月
▷用途＝大学(研究施設)
▷建物構造＝S一部RC造

▷規模＝地下1階地上8階建て
▷延床面積＝4万6,236.33平方メートル
▷最高高さ＝38.15メートル

■空調・衛生設備工事

ダイダン株式会社 東京本社

東京都千代田区富士見2-15-10 電話(03)5276-4594

■施工



時をつくる ところで創る 大林組

東京都港区港南2-15-2 電話(03)5769-1111

■電気設備工事

Kinden きんでん 東京支社

東京都品川区東五反田5-25-12 電話(03)5475-8039

工事協力会社

■シャッター・スチールパーテーション工事

三和シャッター工業株式会社

東京都渋谷区代々木4-30-3 電話(03)6833-0692

■鉄骨工事

株式会社 望月鉄工所

静岡県富士宮市山宮3756-127 電話(0544)58-4001

■鉄骨工事

株式会社 アイ・テック

静岡県静岡市清水区三保387-7 電話(054)337-2000

■鉄骨工事

興栄建設株式会社

秋田県大仙市大曲西根字西道地野502-2 電話(0187)68-2288

■ブラインド工事

株式会社 ニチベイ 東部支店

東京都中央区日本橋3-15-4 電話(03)3272-2238

■植栽工事

株式会社 日比谷アメニス

東京都港区三田4-7-27 電話(03)3453-2404

■アルミサッシ・カーテンウォール工事

株式会社 LIXIL

東京都江東区大島2-1-1 電話(03)6706-7313